

# 茨城大学同窓会連合会会報

2016.3  
第10号



講堂で行われた「茨城学」の様子



昔と変わらない銀杏の樹

## 設立 10 年目にあたって



茨城大学同窓会連合会会長

福地 省行

茨城大学同窓会連合会が発足して今年で10年目を迎え、これまで各学部同窓会間の交流、大学との連携などの活動を行ってきました。この間、同会の運営に当たっては、茨城大学、各学部同窓会など、関係機関の皆様にご多大なご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

特に、昨年は茨苑祭に併せて卒業生を対象として、大学主催のイベントである「ホームカミングデー2015」に同会が協力する形で取り組み、大勢の方々の参加をいただいたところです。今後、さらに充実したものになるよう支援していきたいと思っております。

今、我が国の大学は大きな変革期にあります。国立大学は大学の使命や役割に応じて、「卓越した教育研究」、「専門分野の優れた教育研究」、「地域貢献」の3つのタイプに機能分化されることになり、この中で茨城大学は「地域貢献」タイプに分類されました。茨城大学では、これまで「地域創生の知の拠点 その中で世界的な強み、特色の輝く大学」の構築を目標とした大学改革を進めるとともに、新入生全員を対象として、茨城の自然、歴史、文化、産業などを学ぶ「茨城学」の開設など地域に貢献する取り組みをしてきました。これからもより一層地域との結びつきを強め、発展することが期待されています。

同会としても、この節目にあたり、大学との情報交換を深め、母校の発展と茨城の活性化に役立てればと思っておりますので、皆様の声などを寄せていただければ幸いです。

## 同窓生とのより深い絆を



茨城大学学長

三村 信男

同窓生の皆様には、日頃から本学にご支援を頂いており、心より感謝致します。様々な場面でお会いするにつけても、同窓生の皆様がもっとも熱い本学のサポーターであることを強く感じています。その絆を一層深めるために、昨年11月の茨苑祭の折りに、「ホームカミングデー2015」を開催しました。この日は、ランチパーティーに始まり、管弦楽団や合唱団のパフォーマンス、大学や学生プロジェクトの報告、高橋 修図書館長による記念講演などを行いました。この会には、福地同窓会連合会会長、山口茨城県副知事、留学生の同窓生など150名以上の方々が参加され、交流を深める機会となりました。皆様ご存じのように、現在、全国の国立大学は大きな改革のうねりの中にあります。本学でも「地域創生の知の拠点となる大学、その中で世界的な特色が輝く大学」を目指して大学改革を進めています。これは、変化の激しい社会の中で、未来を切り拓く力を身につけた「たくましい茨大生」を育てる教育の改革が主眼です。同時に、社会の活性化に一層貢献し、そのことによって社会から強く支持される大学を目指すものです。こうした改革のためには、本学をもっと地域社会に開かれたものにする必要があると感じています。図書館のリニューアルなどキャンパスの整備も進めていますので、同窓生の皆様には、母校を訪ねて下さるとともに、一層のご支援をお願い致します。

◆ ◆ ◆ 同窓会交流コーナー ◆ ◆ ◆

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会会長 土田 惣一



平成 27 年度は、総会がなく理事会のみの年で、7月5日(日)に三の丸ホテルで理事 48 名の出席のもと理事会&講演・懇親会が開かれました。理事会の中では、特に、茨城大学社会連携事業会への寄附金(10万円)の贈呈を行うと共に、人文学部地域連携講座の経費一部負担協力をする事としました。また、学部卒業生名簿「2016 年版」(5年毎発刊)を発刊するに当たり、その準備・協力を確認し合いました。理事会後の講演会では、人文学部第1回卒業の茨大名誉教授・大島一芳

さんから、「民主主義と合衆国憲法」について文学面から分かりやすくまた丁寧にお話していただきました。その後の懇親会では、同期ごとに近況報告等のスピーチとともに写真撮影をしながら、理事間の親睦交流を大いに図ったところであります。

また、職域・地域支部として位置づけてます①水交会(学部在京同窓会)が、11月14日(土)にサンケイプラザで、②県庁茨大会同窓会(学部横断)が、11月17日(火)に水戸京成ホテルで、③県南同窓会(学部横断)が、7月12日(日)に農学部こぶし会館で、夫々開かれ、新規会員の紹介、各人の近況報告、講演会、ゲームなどで、先輩後輩間の交流が和やかに行われました。

教育学部同窓会の近況

教育学部同窓会副会長 高瀬 一男



教育学部同窓会では、6月の第4日曜日に総会と代議員会を交互に開催しています。今年度は、6月28日、茨城大学教育学部附属小学校において、幹事に引き続き総会を開催しました。席上、平成25・26年度に教育学部を定年退職された先生10名に、記念品(美術科卒業生制作の壺)を贈呈しました。総会終了後、みまつホテルにおいて、退職祝賀会を開催しました。

- 「真の学力向上を目指して」 第43号
- 「大震災を乗り越えて」 第44号
- 「豊かな心で生きる」 第45号
- 「今、求められる学力」 第46号
- 「これからの学校教育に期待する」 第47号

今年度の第48号は、「今こそ問う 道德教育」をテーマとし、“道德の教科化をどう生かすか”、“道德教育の転換点に立って”、“[道德科]を要とした道德教育の在り方”について提言をいただきました。会報には本部日より、支部日より、会員の広場等も掲載し、交流を図っています。

会報は、毎年教育に関する特集を組み、12月に発行しています。近年の特集テーマは次の通りです。

現在、教育学部同窓会では、会計や会報関連業務等を、大学・附属学校勤務の会員が分担して行っています。より円滑な運営をするためには、同窓会活動の場や事務担当者の確保が課題となっています。

理学部同窓会の活動と会報の役割

理学部同窓会副会長 鈴木 忠和

理学部同窓会は1980年4月に第1回設立総会が開催されてその活動をスタートさせました。また、東京近辺の同窓会の方々を中心に発足していた京水会は既に1960年から活動を始めており、55年にわたる活動は現在も継続して行われています。ただ、新たな会員の入会が少ないことから会員の方々の高齢化が進み、会の運営が難しくなっています。一方、水戸市近辺のOBの方々の親睦を図ることを目的として2011年6月に発足した理水会は今年度第5回の総会を開催し、順調な活動を行っております。

からの投稿文、OBの方々からの投稿文が目につきます。その中の一つに「京コンピュータ開発を経験して」と題して数学科・平成1年度卒の長谷川幸弘君の寄稿文があります。氏が大学を卒業してから7年間にわたる最先端のスーパーコンピュータ京の開発に携わってきた経験が紹介されています。氏はこの貴重な経験を1,2年次生を対象とした「理学部教育と就職」という集中講義で講義すること。在学生にとっても貴重な経験に触れることができるものと思います。このように、社会に出て活躍しているOBの方々の貴重な経験を在学生に触れさせる機会を作ること同窓会の活動の大切な一面かと思えます。

同窓会の活動の周知を図るうえで重要な役割を果たしているのは、同窓会ホームページと同窓会・会報です。ホームページは担当の常任幹事の努力により2010年にリニューアルされ、同窓会活動を適宜紹介するとともに、会員との双方向のコミュニケーションの場を提供しています。一方、会報は1998年に創刊号が発行されて以後毎年発行され、今年18号を発行することができました。第18号を紐解きますと在学生



理学部同窓会・会報18号

## 工学部同窓会の活動

多賀工業会会長 塩幡 宏規



昨年は、総会のある年で6月13日(土)に馬場工学部長・多賀工業会名誉会長をお招きして盛大に開催されました。工業会理事会、埼玉支部設立40周年記念総会、懇親会も同時開催となりました。特別講演では、馬場工学部長に現在改革を進めている大学の状況について分かりやすくご講演いただき、会員から大変好評の中で終了しました。次回は2年後のほぼ同時期に静岡支部主担当、中部支部支援で開催を予定しています。

多賀工業会には14の支部があり、共通の悩みはいずれも若手会員の参加不足であります。企業のグローバル戦略化での会員の異動や定年で退職者の再雇用

などがその一因となっています。この問題は支部の存続に大きな影響があるため、各支部と本部とが共通の課題として今後優先的にその解決に取り組んでいきます。

多賀工業会は本年で75周年を迎えます。現在の会員数は34000名です。日立総合支部が担当し、現在記念事業を鋭意計画進行中であります。多くの会員の参加をお願いいたします。

昨年の活動のうち、5月31日(日)に開催された工学祭への参加では、例年通り東京支部と埼玉支部の協力で写真展を開くことができました。とくに展示場所を多賀工業会館から生協近くの講義棟に移した効果が非常に多く、来場者があり盛況でした。

本部・支部事業を通して、会員に愛され、会員に役立つ同窓会を目指してこれからも活動していきます。

## 農学部同窓会の活動について

農学部同窓会幹事長 黒田 久雄

農学部同窓会は、学部卒約6,300人、大学院修了約1,100人(学部卒業生と兼を含む)となっています。その中で農学部学内幹事として、農学部卒業生の教員9名が同窓会事務を担当しています。全ての学科に卒業生が複数いますので、何かお聞きになりたいことがあれば、学内幹事まで連絡をお願いします。

10月31日に、農学部ホームカミングデーが開催されました。ホームページを見て農学部に足を運んでいただいた卒業生の方々もいました。今年度は鍬耕祭の開催に合わせて行ったため鍬耕祭の見学でも楽しんでもらえたことと思います。しかし、残念ながら学内幹事のほとんどは、鍬耕祭と1年次が阿見キャンパスを訪問する阿見オリエンテーションの仕事と重なってしまったため、なかなか協力ができませんでした。来年も農学部ホームカミングデーを開

催する予定でいますので、農学部同窓会として何らかのイベントや情報発信をしたいと思っています。まだ時期が決まっていませんので、農学部のホームページを時間があれば訪れてください。

また、県南同窓会が毎年7月頃に阿見キャンパスで開催されています。農学部同窓会としても会場のお世話をしていますので、県南同窓会への参加もよろしくをお願いします。

現2年次より農学実習が専門基礎科目として全員必修科目となりました。農作業体験の雰囲気をお伝えします。



農学実習  
サツマイモの定植作業

## 大学トピックス

### 地(知)の拠点大学による地方創生推進(COCプラス)事業の紹介

茨城大学地方創生推進室長 米倉 達広



茨城大学同窓会連合会の皆さま、この度は社会連携センター長と兼任しております地方創生推進室長という立場でご挨拶申し上げます。本学で平成26年度に採択された文科省のCOC(Center Of Community)事業に引き続き、お陰さまで平成27年度には同じ文科省の事業であるCOCプラス事業にも採択されました。本稿で少しご紹介いたします。

これら2事業の違いは、COC事業が「地(知)の拠点整備事業」の名のもと、大学と地域が連携した地域志向教育の拡充により、地域人材育成を目指すための教育プログラム改革が主目的でした。一方、COCプラス事業では、これを更に発展させ、地域にある複数大学が自治体や産業界と連携し、地元への就労・定着を促進する大学間キャリア支援システムの構築を目指す、いわゆるキャリア支援体制の構築が主目的です。従って、地域志向教育とインターンシップ支援、就職支援をセットにした大学機能の

強化が課せられています。しかも地域の複数大学が連携していることが重要な点です。具体的には、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学、茨城高等工業専門学校、常磐大学に茨城大学を加えた4大学1高専が、それぞれの強み・特色を活かした地域志向教育プログラムやインターンシッププログラムなどの資源を融通しあい、共有しあうこと、それによっていわゆる地域共創人材を数多く輩出し、延いては地域の産業界の活性化に繋げていくのが狙いです。そのために茨城県や茨城産業会議、NPO法人雇用人材協会が、上記の4大学1高専とネットワークを組む事業協働機関になっています。

このように、地域への人材定着を核とした地域課題解決のためのハブ機能を、地域の大学群が連携して実現するのがCOCプラス事業の特徴です。そのためには各界で活躍される本学の卒業生の皆様方のお力添えを頂戴しなければなりません。同窓会連合会の皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解頂き、今後ともご支援ならびにご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 第10回総会を開催

平成 27 年 11 月 15 日(日)、茨城大学図書館ライブラリーホールにおいて、第 10 回総会が開催され、総勢 50 名が出席しました。総会は、福地省行会長の挨拶に始まり、三村信男学長(連合会名誉会長)からの挨拶の後、「平成 26 年度事業報告及び決算報告」と「平成 27 年度事業計画案及び予算案」及び「平成 27 年役員交代」の 3 件の議事が諮られ、審議の結果、それぞれ満場一致で承認されました。また、各学部同窓会から近況報告や活動紹介が

あり、さらに大学側から茨城大学社会連携事業会への寄附協力に対する謝辞や、活動報告がされました。

総会後は、「ホームカミングデー 2015」が開催され、前半のランチパーティーには総勢 150 名が参加し、在学生や卒業生同士情報交換を図るなど、終始和やかな雰囲気での歓談し、交流を楽しみました。後半は、管弦楽団や合唱団のパフォーマンス、図書館長高橋修教授の記念講演、校歌斉唱等、盛りだくさんの 1 日となりました。

### 平成 26 年度 (H26. 10. 1 ~ H27. 9. 30) 事業報告・収支決算

年月日	事業項目	内容
H26/10/ 4	第 28 回幹事会・第 9 回総会・懇親会	①平成 25 年度事業及び会計報告について ②平成 26 年度事業計画及び予算について ③平成 26・27 年度役員について
H26/10/17	第 29 回幹事会	①ホームカミングデー(トライアル)の開催について ②茨城大学同窓会連合会会報(第 9 号)の発行について
H26/10/17	「茨城大学社会連携事業会」へ寄附	5 万円を寄贈
H27/ 3/ 1	会報「第 9 号」発行	発行部数：5,000 部
H27/ 7/ 1	茨城大学と学部同窓会との意見交換会	①学部同窓会に係る課題 ②同窓会連合会に係る課題 ③ホームカミングデーの実施について ④今後の検討のポイント
H27/ 9/ 14	第 30 回幹事会	①茨城大学ホームカミングデー 2015 へ協力依頼について ②第 10 回茨城大学同窓会連合会総会の開催日程について ③茨城大学同窓会連合会案内状送付リストの作成について

事項	収入			支出		
	当初予算	収入額	備考	当初予算	支出額	備考
1 繰越金	1,058,798	1,058,798		1 管理費	140,000	116,668
2 会費	250,000	250,000	同窓会連合会会費(5学部同窓会×5万円)	(1) 通信費	10,000	2,728
3 事業費	120,000	114,000	懇親会費(3千円×38名)	(2) 印刷費	120,000	113,940
4 預金利息	202	184	2月分・8月分	(3) 事務費	10,000	0
合 計	1,429,000	1,422,982		2 事業費	230,000	187,000
				(1) 会議費	150,000	117,000
				(2) 交際費	30,000	20,000
				(3) 寄附金	50,000	50,000
				3 予備費	1,059,000	0
				合 計	1,429,000	303,668
				次年度繰越額		1,119,314

(収入)1,422,982 円 - (支出)303,668 円 = (残額)1,119,314 円(平成27年度へ繰越)

### 平成 27 年度 (H27. 10. 1 ~ H28. 9. 30) 事業計画・予算

年月日	事業項目	内容
H27/10/22	第 31 回幹事会	①平成 26 年度事業報告及び決算報告について ②平成 27 年度事業計画案及び予算案について ③平成 27 年度役員交代について ④会報(第 10 号)の発行について ⑤ホームカミングデー 2015 ランチパーティーへの現役学生の参加について
H27/11/15	第 32 回幹事会・第 10 回総会	①平成 26 年度事業報告及び決算報告について ②平成 27 年度事業計画案及び予算案について ③平成 27 年度役員交代について
H27/12	「茨城大学社会連携事業会」へ寄附	5 万円を寄贈
H28/ 3/ 1	会報「第 10 号」発行	発行部数：5,000 部(案)
H28/ 5	第 33 回幹事会	①事業活動について
H28/ 7	第 9 回同窓会連合会と大学役員との懇談会	①大学の近況報告等 ②各同窓会会長等より報告/要望/意見等 ③大学関係者からの報告/要望等
H28/ 7	第 34 回幹事会	①第 11 回総会・ホームカミングデー 2016 について

事項	収入		支出	
	予算額	備考	予算額	備考
1 繰越金	1,119,314		1 管理費	140,000
2 会費	250,000	同窓会連合会会費(5学部同窓会×5万円)	(1) 通信費	10,000
3 事業費	0	懇親会をホームカミングデーに組み入れたため会費収入なし	(2) 印刷費	120,000
4 預金利息	200	2月分・8月分	(3) 事務費	10,000
合 計	1,369,514		2 事業費	130,000
			(1) 会議費	50,000
			(2) 交際費	30,000
			(3) 寄附金	50,000
			3 予備費	1,099,514
			合 計	1,369,514

\* H28/10 第 35 回幹事会  
\* H28/11 第 11 回総会・ホームカミングデー 2016…茨苑祭との調整による

## 茨城大学同窓会連合会役員

名誉会長	三村 信男	(茨城大学 学長)
顧問	伏見 厚次郎	(茨城大学理事・副学長)
顧問	尾崎 久記	(茨城大学理事・副学長)
会長	福地 省行	(農学部同窓会会長)
副会長	土田 惣一	(文理・人文学部同窓会会長)
副会長	堀川 賢壽	(教育学部同窓会会長)
副会長	久保田 益充	(理学部同窓会会長)
副会長	塩幡 宏規	(多賀工業会会長)
代表幹事	黒田 久雄	(農学部同窓会幹事長)
幹事	糟谷 政和	(文理・人文学部同窓会幹事長)
幹事	佐藤 瑛一	(教育学部同窓会幹事長)
幹事	山村 靖夫	(理学部同窓会常任幹事)
幹事	清水 淳	(多賀工業会理事)
幹事	小松崎 将一	(農学部同窓会幹事)
会計監事	増子 節壽	(文理・人文学部同窓会財務担当理事・事務局)
会計監事	清水 淳	(多賀工業会理事)

## 編集後記

今号より、茨城大学同窓会連合会会報を卒業式当日に卒業生・修了生全員に配付することになりました。茨城大学同窓会連合会は、各同窓会間の交流と連携を推進し、大学の同窓生の交流・親睦を図り、大学との連携を強化して大学の発展に寄与することを目的としています。今年度からホームカミングデーも本格開催され、多くの卒業生が茨苑祭の日にあずけてもらいました。学生時代を思い出すこと、現在の大学の姿を知ること、そして今後の大学の発展に期待することができたかと思いません。卒業・修了生の皆様、私たち同窓会の新たな仲間として今後とも茨城大学を支える力となることを期待しています。

平成28年3月 茨城大学  
同窓会連合会代表幹事

黒田 久雄 ホームカミングデー 2015 記念撮影



茨城大学同窓会連合会事務局  
(茨城大学総務課内)  
〒310-8512 水戸市文京2-1-1  
電話：029-228-8007 FAX：029-228-8019

茨城大学HP  
<http://www.ibaraki.ac.jp/>  
茨城大学同窓会連合会HP  
<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/alumnus/union/>